

## グローバルヘルスリテラシー研究のダイナミックな動向

- |               |      |
|---------------|------|
| ○ 西南財経大学 (中国) | 齊 少傑 |
| 西南財経大学 (中国)   | 花 逢瑞 |
| 東北大学(日本)      | 許 晟源 |
| 淮陰師範学院 (中国)   | 劉 峰  |

キーワード：グローバルヘルスリテラシー CiteSpace 計量書誌学

## 1. 研究目的

現在、全世界は不確定要素が溢れた COVID-19 の大流行の時期に、民衆のヘルスリテラシー (Health Literacy) レベルをいかに有効に向上させるかが未曾有の重要課題である。文献データの掘り下げと可視化計量技術によるヘルスリテラシー研究の知識図を作成し、世界の学術界におけるヘルスリテラシーに関する研究の現状と傾向を体系的に示し、ヘルスリテラシー分野の応用研究に方向性を導くことができればと思う。

## 2. 研究の視点および方法

本稿では、ヘルスリテラシーを取り上げ、その研究群の全体像を計量書誌学 (bibliometrics) の観点から検討する。計量書誌学とは、書籍や学術論文などの文献に対するタイトルや収録雑誌名、著者、著者の所属機関、抄録 (abstract)、キーワード、本文、参考文献などの書誌情報 (bibliography) を定量的に分析し、個々の文献やその集合にみられる特徴を明らかにする学術分野を指す。本稿で使用するデータは、Clarivate Analytics 社が提供する Web of Science Social Sciences Citation Index (以下 WoS と表記) から抽出されたヘルスリテラシーに関する学術論文の書誌情報を統合して筆者自身が作成した論文データベースである。WoS は、多くの研究者によって日常の研究活動に使用されている学術研究情報データベースであり、計量書誌学的な研究における情報源としてもよく用いられている。文献の検索処理によって、WoS から 9,492 件の書誌情報レコードがそれぞれ抽出された。各文献の引用・被引用関係を定量的に捉えて、引用・被引用関係のネットワークの可視化を試みる。これらの取り組みを通して、主要論文とみなしうる論考を時系列に沿い、研究系譜図を作成する。

## 3. 倫理的配慮

本研究は文献検討が中心であるが、日本社会福祉学会「研究倫理指針」に従い報告を行う。

## 4. 研究結果

本稿では、計量書誌学を用いて、1995 年から 2020 年までのヘルスリテラシー研究のネットワーク構造とテーマ傾向を分析した。CieteSpace 知識マップの解析はパノラマ式であり、ヘルスリテラシー研究の歴史的価値を示すだけでなく、近年のヘルスリテラシー研究の傾向と将来の議題をも指摘している。概念の提出から今日に至るまで、ヘルスリテラシーに対する研究が次第に拡大してきていることが、文献の時間分布表から明らかに分かる。ヘルスリテラシー文献の主な出所ジャーナルは医学、公共衛生及び健康関連分野で、Patint

Education and Counseling、Journal of General Medicine と Journal of Health Communication が代表としている。米国のヘルスリテラシーに関する研究は他の国に比べてはるかに先行しており、文献数は全体 67%以上を占めている。また、科学的知識図に基づく学科間ネットワーク解析は、ヘルスリテラシー研究が独立した学科から多学科へ交差する過程であることを示している。最後に、キーノード的な文献とクラスター分類を通じて、ヘルスリテラシーの研究テーマは時間とともに発展経路を示す。すなわち、ヘルスリテラシー概念の提出及び普及、評価ツールの提出及び改善、低ヘルスリテラシー群に対する関心、心理ヘルスリテラシーの分枝の現れ、電子ヘルスリテラシーなど新しい概念の提出という経路が分かる。また、心理ヘルスリテラシーは近年最も活発な研究分野であり、研究と実践の中で比較的独立した研究分野であり、成熟しつつある。Sorensen K. (2015)、Batterham R. W. (2016) や Kutcher S. (2016) などは、ヘルスリテラシー分野における先端文献である。これらは今後のヘルスリテラシー研究の主な発展動向であり、今後も引き続き注目されるホットテーマでもある。

## 5. 考察

現在、ヘルスリテラシー知識の生産は主にある国、または地域の内部協力に依存している。特に機構内の小団体と協力し、チームの規模は2~5人に集中している。作者の協力ネットワークの全体的な接続性は高くなく、サブネットは双核と橋のモードを主とする。国際協力は二国間と三国間の協力モデルを主とし、欧米など先進国の国際協力のレベルは普遍的に高い。深層的かつ長期的に見ると、ヘルスリテラシー問題を解決するためには、システム的な方法が必要であり、地域、国家、全世界各レベルのヘルスリテラシーを強化する協力ネットワークの枠組みが必要である。同時に、さまざまな国と機関の研究グループは、ヘルスリテラシー研究の応用をさらに推進するために、より多くの協力が必要である。将来、ヘルスリテラシーの研究は、心理的ヘルスリテラシーと電子的ヘルスリテラシーの二つの方向に広がっていくことが予想される。この二つの分野は社会発展と社会問題と緊密につながっている。まず、心理的健康が重要な社会問題と公衆衛生問題になった。この現象をもたらした重要な原因の一つは民衆の心理健康素養が一般的に高くないことである。心理的ヘルスリテラシーの向上は、心理的な問題のさらなる発展を避けるために、早期介入措置の最適化の道を提供することができる。そのため、心理健康素養分野に関する研究は学術界と社会各界のより多くの関心と重視を得るべきである。第二に、オンラインコンサルティングの発展が速い今日では、電子ヘルスリテラシーは重要な能力指標となった。これは住民がネットを通じて健康情報の取得、使用及び関連の健康選択に直接影響を与えた。電子ヘルスリテラシーの測定方法を積極的に推進し、様々な人の中で関連調査を行うべきである。また、様々な関与方法を通じて、健康情報を得る方法と健康情報を識別する能力を向上させる。以上より、本研究は、ヘルスリテラシー研究の新たな方向と新たな視点を決定するために有益な情報を提供するとともに、伝統文献の概要を著しく補足することができる。